

国際財務報告基準 (IFRS) 対応支援サービス

攻めのIFRS適用
～将来のデファクトスタンダード化を見据えた先取りの改革を支援～

日本では、成長戦略の一環として、IFRS 適用企業拡大促進を掲げており、任意適用ながら既に多くの企業が準備を行っています。アビームコンサルティングは、IFRS 対応の方針策定を始め、会計処理・業務プロセス・システム・内部統制・組織にいたる包括的なサービスを提供いたします。

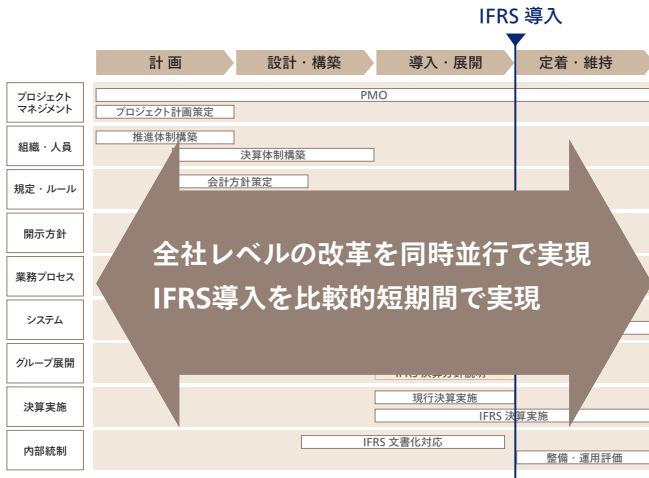
IFRS 導入における2つの方式

会計基準をIFRSに切り替えることに伴う組織・業務等の全社レベルでの改革は、一定期間に同時並行で実現することになるため、IFRS 導入までの期間は比較的短期間となる反面、複雑になると考えられます(全社改革方式)。

他方、導入に踏み切れない企業においても、同業他社のIFRS 導入決定や日本基準のIFRSへのコンバージェンスを踏まえると、少なからず影響を受ける状況にあります。この場合、IFRS 導入を副次的な目的として個別の改革を漸次実施し、企業の状況を踏まえた改革を実施していくことで、IFRS 導入を中長期的な期間にわたり検討することが可能となります(個別改革方式)。

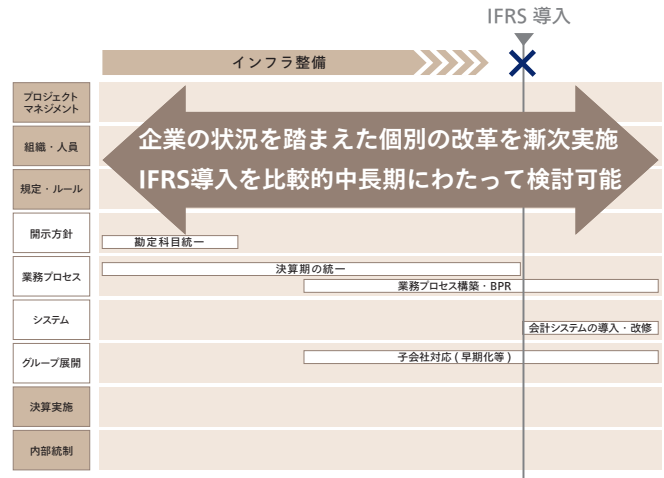
全社改革方式

- IFRS 導入を主目的として、全社レベルで改革実現を目指すため、一定期間に複数の対応を実施する。
- 個別の対応を同時並行で実施するため、各関係者と調整し、プロジェクトマネジメントが重要となる。



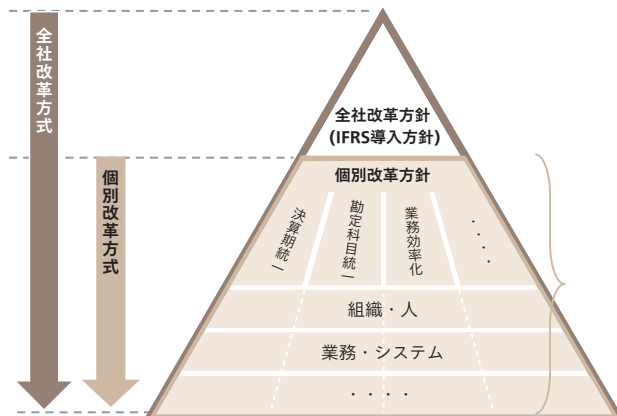
個別改革方式

- IFRS 導入を副次的な目的として、企業の状況を踏まえた個別の改革を実現する。
- 個別対応での改革を目指すため、IFRS の導入を比較的中長期にわたって検討することが可能となる。



成功のポイント

全社改革方式・個別改革方式のいずれを採用した場合においても、成功のポイントは、決算期統一・勘定科目統一・業務効率化等の個別の改革について、監査法人・グループ会社・関連部署等、関係者と綿密な連携のうえ、組織・人、業務・システム等の改革方針を策定することにあります。



成功のポイント

- 全社改革方式・個別改革方式のいずれを採用した場合にも、関係者との綿密な連携のうえ個別の対応方針の検討が必要。
- 企業の戦略的な目的に応じた組織 / 人員、業務プロセス、システム等の各領域の対応方針を策定し、プロジェクトアプローチを明確化することが必要。

サービスの特徴

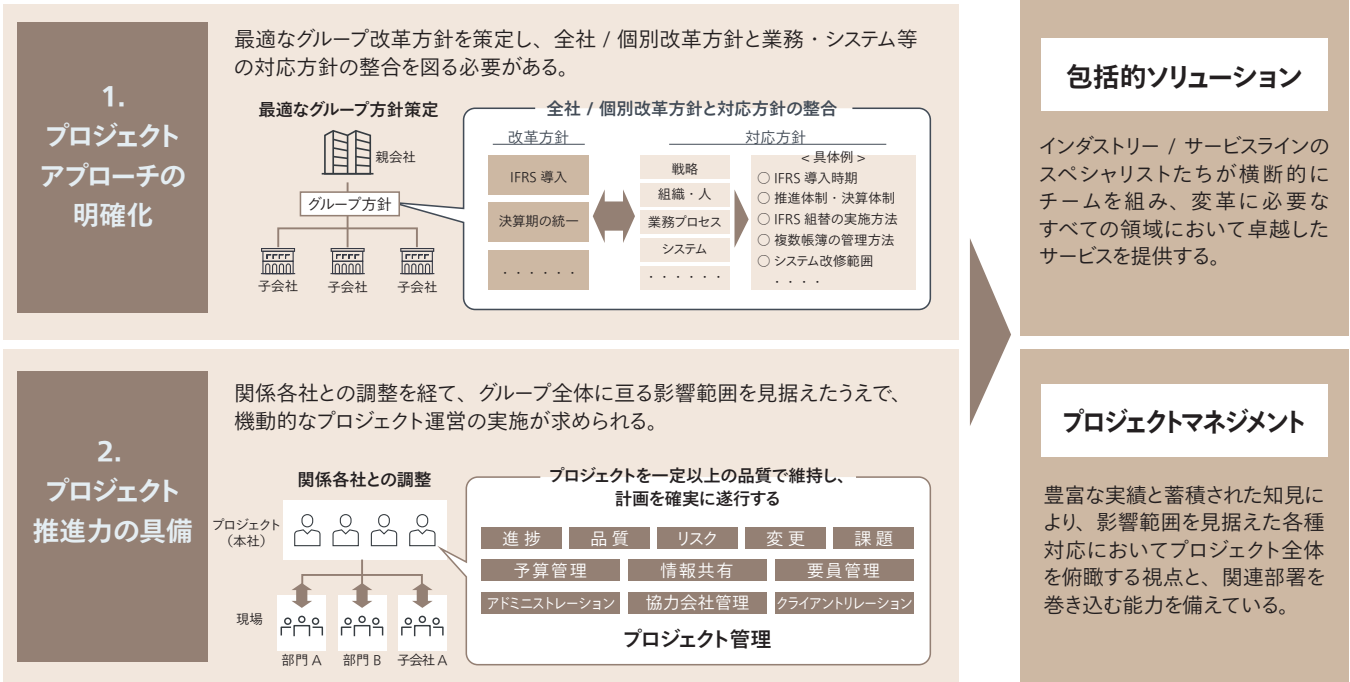
IFRS 導入では、プロジェクトアプローチの明確化およびプロジェクト推進力を具備した業務遂行が必要です。

アビームコンサルティングでは、プロジェクトの成功に必要な個々の対応方針を考慮したグループ方針の策定と、IFRS 導入による影響範囲を踏まえた前広な各関係者との調整を実施します。

成功ポイント

推進上の課題

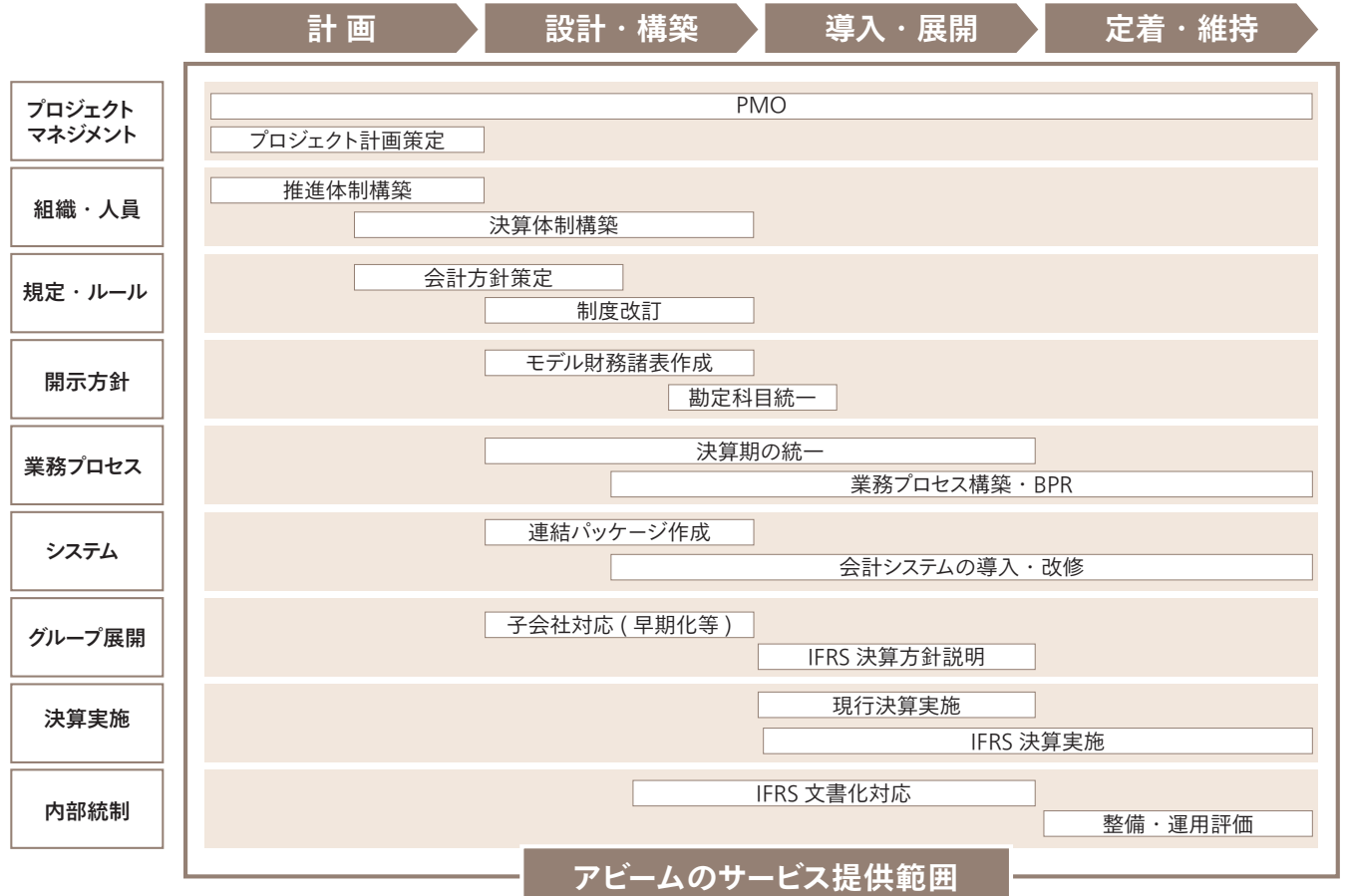
アビームの強み



アビームコンサルティングのサービス領域

アビームコンサルティングは、プロジェクトマネジメント、システム導入プロジェクトの豊富な実績と蓄積された知見を持っており、IFRS プロジェクトの上流から下流までの全ての領域において支援します。

各サービスは、IFRS サービスの一部としてだけでなく、個別のサービスとして提供可能です。



各サービスはIFRSサービスの一部としてだけでなく 個別のサービスとして提供することが可能